菊水小学校　学校だより　第６号

『みんなの笑顔のために』

Ｒ４．６．１４
文責　井上雄治

６月は　☆心のきずなを深める月間☆です。

～いじめを許さない学校・学級を目指して～

いじめは人権を無視した卑劣な行為であり、人の命をも奪うものです。その根絶に向けて一人一人が真剣に考え、取り組んでいく必要があります。菊水小では**「命・人・心・物を大切にできる笑顔かがやく子ども」**の育成を目指して取組を進めています。

すべての人の命の重さは同じです。その命の重さに差をつけることが「差別」だと私は考えています。その大切な命が、いじめによって奪われるということは絶対にあってはなりません。

次の新聞記事（『松葉杖心中事件』）は、いじめをなくし心のきずなを深めるためにはどうすればよいのかを考えるために、これまで何度も読み返してきた資料です。いじめについて考えるきっかけにしてほしいと考えています。

【昭和53年4月22日　神奈川新聞の記事から】

４月２２日午後１１時４０分頃、横浜市南区桜ヶ丘町８４、森野美也子さん宅浴場付近で大きな爆発音があり係員が急行したところ、ガス栓が２カ所開けられたままになっており、浴場入り口土間で美也子さん（３５才）が全身やけどをおってほとんど即死の状態で死んでいた。

さらに、６畳居間に長男豊君（若須小学校１年）長女理絵ちゃん（４才）が晴れ着のまま毛布の上に眠るように死んでいた。二人の両手には数珠（じゅず）がかけられており、ガス中毒がその死因と見られている。

なお、隣家の山光高二さんの証言によると、ガスの臭いが１０時半頃にかなり強く流れてきたので、自宅の点検を二度もしたという。横浜南署の調べによると、美也子さんが長男豊君のことで深刻に悩んでいたこと。そして、その豊君が昨年１０月下校中にダンプに巻き込まれ、右足を切断していたことなどから、母子３人前途を悲観しての覚悟の心中と見ている。

美也子さん（母親）の日記から

＜１２月２１日＞　勤め帰りに病室によると看護師のＭさんが、「『あのねえ、サンタのおじさん、ぼくが世界一よい子にしていたら一番欲しいプレゼント持ってきてくれる？』と豊ちゃんが聞くんです。『そりゃそうよ、ゆっちゃんの願い事かなえて下さるわよ。ねぇ、それ、なーに？』と聞いたら、『うーん、あのねぇ･･･』と言って足先をじっと見たままだったんです。」そう言って涙ぐんでしまわれました。ありがとうＭさん。だって豊はあたなに一番なついているのですもの。けれど、今日ほど豊の病室に入るのにつらかったことはなかった。つらいでしょう豊。ほしいでしょう右足・・・。

＜１２月２９日＞　退院して２日が過ぎた。そして、今日家で初めて松葉杖の歩行訓練をした。終わりの近く、こたつに引っかけて転んだ。おきもせずに泣く。理絵が走り寄る。けれど痛いから泣いているのではない。「ゆっちゃん、がんばれ」そう祈らずにはいられない。

→裏につづく

＜３月２０日＞　みどり幼稚園の卒園式。事故にあって以来初めて行く。先生と孝一君が迎えにきてくださり、先生の車で行く。けれど、お友達やお母さんたちの視線が豊に集まっている。それも切断された足を見られていることを感じているらしく、時折、下を向いてしまう。家に帰り着くと勉強部屋で両手で足を押さえて泣き続ける。退院後、一番長く泣き続ける。

＜４月７日＞　いよいよ明日が若須小学校の入学式。今日は孝一君と私がついて松葉杖で小学校まで歩いてみる。途中で何度も休んで・・・。孝一君にできるだけ手助けを借りずに、とうとうやりとげた。往復２㎞を松葉杖でひとりで・・・。豊、えらかったよ。よく辛抱したね。けれど心配なこと・・・。学校の中のあんなに多くの階段、とび石、そして初めて顔を合わせる多くの上級生。何もなければいいが。

＜４月１０日＞　学校で何があったのだろうか。帰り着いたとたんにうめくように泣く。どんなに泣いても言わない。夜、受け持ちの先生から電話。保健室の階段の所で相当はげしく転んだ様子。しばらく立ち上がれなかったとのこと。けれど、それゆえではなかった。本当のことー６年生が３人やって来て、切断している場所を見せろと言って、泣いていやがるのにズボンをめくって足を見たとのこと。夜遅く、孝一君のお母さんからの電話で知る。ひどい人たち、憎い人たち。先生守ってください。お友達守ってください。上級生の方たちやさしくなってください。

＜４月１５日＞　豊が「もう学校には行かない」と言って泣く。だんだん暗くなっていく。とてもやせてしまって、毎日何かがあっている。孝一君も、学校が嫌いだと言い始めたそうな。毎日どんなに励ましてもなぐさめても。心を鬼にして叱っても。もう私には言葉はない。昨日、松葉杖がかくされたそうな。先生が聞かれても分からず、みんながさがしてくれても出てこずに・・・。そして、お昼近くに池の所に捨てられていたとのこと。もうどうしていいのかわからない。どんな苦労もしてきた。主人が死んで、母子３人耐え抜いて生きてきた。貧乏にもなれた。まずいご飯も何ともない。けれど人の冷たさ、学校の冷たさ、ひどさには耐えられない。神様、お助け下さい。あなた、私たちはどうすればいいのでしょうか。豊をお守り下さい。どうぞ力を豊に与えて下さい。

ここで、美也子さんの日記は終わっていた。
多くの思いを残し、多くの思いを投げかけながら母子は死をえらんでいった。
祭壇には、母子３人で伊豆旅行に行った時の笑顔の写真と、松葉杖が飾られてあったという。

（「人権学習教材『松葉杖心中事件』その責任を考える」より）